

施策5

学びを支える教育環境の充実

Ⅰ 幼保小中一貫教育の推進（教育推進課）（子ども支援課）

● 具体的な取組

（Ⅰ） 多治見市型幼保小中一貫教育の推進

幼児期の学びから、運動習慣・学習習慣・生活習慣が身に付くよう、園・学校と家庭が連携して取り組みます。「めざす子ども像」実現に向け、幼児期から共通して取り組むことができるように相互理解を深めます。

令和6年度計画（子ども支援課）	
・「いきいき遊び」「いきいき運動遊び」を毎日継続します。 ・「たじっこチャレンジ」を活用した発達段階に合わせた成果を目標とし、遊びと生活が密接に結びついていることを保護者に啓発し、家庭における親子運動遊びの推進を図ります。 ・生活習慣の自立は、将来的な学習能力につながることや、「自分でやろう」とする意欲の向上、絵本の読み聞かせによる心の安定と豊かな想像力、言葉の習得など、日々の積み重ねが子どもの力につながることを、引き続き保護者に啓発していきます。	
取組・実績	
<実施内容> ・公立保育園・幼稚園にて「体力アッププラン」を立案し、「いきいき運動遊び」を通して、様々な体の動かし方を楽しく経験できるように遊び方を工夫し実施しました。 また、年1回の体力測定を実施して効果を確認し、課題の抽出と活動の見直しを実施しました。 ・毎朝「いきいき遊び」を行うことで、短期的な集中力を育みました。 ・「たじっこチャレンジ」※について家庭に周知し、家庭で取組める親子遊びの推進やノーテレビノーゲームデーの啓発、「成長の歩み」の確認などを実施し、子どもの成長や生活習慣について意識してもらうきっかけ作りをしました。 ※習慣向上を図るための見取り図 <主要な事業費（R6年度予算）> なし	
	
成果・効果	
・散歩や思い切り体を動かす楽しい経験や遊びを通して、自分でやろうとする意欲の増進から体力向上だけでなく、生活習慣の確立や集中する力なども伸びてきました。 ・子どもの生活習慣や親子での時間の過ごし方について、保護者の意識の向上がみられるようになってきました。絵本の読み聞かせの大切さに気付き、生活に位置付ける保護者が増えました。	
令和7年度取組予定	
・「いきいき遊び」「いきいき運動遊び」を毎日継続します。 ・「たじっこチャレンジ」を活用した発達段階に合わせた成果を目標とし、遊びと生活が密接に結びついていることを保護者に啓発し、家庭における親子運動遊びの推進を図ります。 ・生活習慣の自立は、将来的な学習能力につながることや、「自分でやろう」とする意欲の向上、絵本の読み聞かせによる心の安定と豊かな想像力、言葉の習得など、日々の積み重ねが子どもの力につながることを、引き続き保護者に啓発していきます。	

(2) 幼保小の架け橋プログラムに沿った幼保小の連携強化

幼稚園の教諭や保育士と小学校の教員が、互いの保育や教育を参観し合うことにより、成長の連続性を意識した教育につなげます。また、「幼保小の架け橋プログラム」を基に、幼児教育から小学校教育へのスムーズな移行や発達段階に応じた学びを推進します。

令和6年度計画（子ども支援課）
・幼保小の架け橋プログラムについて継続して実施します。
取組・実績
<実施内容> ・幼稚園教諭や保育士が小学校教育を参観、または小学校教員が幼稚園・保育園を参観し、懇談することで、良さを認め合い発達段階による指導や相応しい連携について学びました。（年3～5回） ・幼稚園・保育園の年長児と小学生との交流を実施しました。（年1～2回） ・年長児の様子を小学校教員が参観し、引継ぎを行うことで、園児や保護者の不安を取り除きスムーズな就学となるよう連携しました。 <主要な事業費（R6年度予算）> なし
成果・効果
・園生活と小学校生活との違いを少しずつ埋められるよう、それぞれの段階で必要な子どもとのかかわり方やカリキュラムの交流など、連携の重要性について再確認できました。また、就学時の園児や保護者の不安を軽減させる幼保小の連携が早い段階から実施できています。
令和7年度取組予定
・幼保小の架け橋プログラムについて継続して実施します。

(3) 学びの連続性や系統性を重視した小中一貫教育の推進

小学校と中学校の9年間で一貫した学びを実施し、学習面や生活面での環境の変化を低減するため、中学校区を単位として小中学校の連携推進を図ります。令和8年度開校する笠原小中学校のカリキュラム編成や特色ある教育の推進を図り、その成果を他の学校の一貫教育につなげます。

令和6年度計画
・令和6年度笠原小学校が笠原中学校の敷地内の仮設校舎に移転することに伴い、小・中学校の時間割のうち、朝活動、1・3時間目、昼休み、掃除の時間については開始時刻を揃えます。
取組・実績
<実施内容> ・笠原小学校が仮設校舎に移転後、小・中学生が互い思いやり合いながら生活をしています。 ・笠原小中学校の開校に向けて、教育委員会事務局、笠原小・中学校の関係者が集まり、分野ごとのWGでソフト面についての検討を重ねています。校長WGでは、校歌や特色ある教育活動等について、教頭WGでは、PTA活動や学校運営協議会等について、教務WGでは、カリキュラム編成等について、生徒指導WGでは、制服等について検討・調整しています。 ・笠原幼保小中一貫教育研究会後（R6.7.2、R6.10.21）に笠原幼保小中ニュース「杜」の第3、4号を発行し、地域の方々や幼稚園、保育園、笠原小・中学校の保護者に情報提供しました。 <主要な事業費（R7.1.31時点）> ・多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会2回開催 委員謝礼 100千円
成果・効果
・WGを定期的（3～4か月に1回）に開催することで、笠原小・中学校の連携推進を図ることができ、開校における下地づくりを行うことができました。

令和7年度取組予定
・令和8年度笠原小中学校の開校に備えてチャイムを鳴らす時刻の共通化や通学路の確認、地域への説明等を実施します。

● 計画の成果目標

笠原小中学校の開校に向けた進行状況		
基準値（令和4年度）	現状（令和6年度）	目標（令和9年度）
実施計画の立案	実施計画に基づいて進行	実施計画に基づく開校（令和8年度）

幼稚園の教諭や保育士と小学校の教員が保育や授業を公開し、合同研修会を実施		
基準値（令和4年度）	現状（令和6年度）	目標（令和9年度）
—	3～5回／年	1回／年→3回／年

2 教職員の働き方改革の推進（教育推進課）

●具体的な取組

（１）教職員のゆとりある学校生活の推進

学校行事やカリキュラム編成の見直しを図り、教職員が年間を通してゆとりある学校生活を送ることができるようになります。その結果、教職員が日常生活にゆとりをもち、公私ともに充実した生活を送ることをめざします。

（２）教職員の心身の健康維持促進

教職員が子ども達と元気に笑顔で接するために、教職員のメンタルヘルスケアに努めます。メンタルヘルスチェックを年１回実施します。

令和6年度計画				
・全体的に仕事の「量」・「質」とともにやや負担を感じながらも、上司からの支援を受け、それぞれの良さを生かしながら働きがいを感じている教職員が多い傾向にあります。また、小学校において40代の男性の「自覚的な身体的負担度」が悪い結果となっていることから、校務的な負担が大きいと推測されるため、課題として捉えていきます。				
取組・実績				
<実施内容> ・保護者との良好な関係づくりを目的に教員コミュニケーション研修を実施しました。(R6.7.29) ・教職員ストレスチェックを実施しました。実施率は94.2%で、病気休暇・育児休暇の教職員は実施できないため、100%の実施は難しくなっています。高ストレス者の割合は、12.39%となり0.24%増加しました。(実施期間：R6.7.8～R6.7.21、対象者数：480人、回答者数452人) ※全国と比較して高ストレス項目 - 心理的な仕事の負担（量）、心理的な仕事の負担（質）、自覚的な身体的負担度 ※全国と比較して低ストレス項目 - 職場環境によるストレス、技能の活用、働きがい、上司からの支援 ※働きがいに関する項目（普通以上90.5%） - 良い（30.8%）、やや良い（0%）、普通（59.7%）、やや悪い（9.1%）、悪い（0.4%） ・高ストレス者で病院への受診を希望する教職員については、教育委員会の担当者のみの連絡で受診できることを周知しました。 <主要な事業費（R6年度予算）> <table><tr><td>保護者との良好な関係づくり研修</td><td>100千円</td></tr><tr><td>教職員ストレスチェック事業</td><td>50千円</td></tr></table>	保護者との良好な関係づくり研修	100千円	教職員ストレスチェック事業	50千円
保護者との良好な関係づくり研修	100千円			
教職員ストレスチェック事業	50千円			
成果・効果				
・ストレスチェックの項目ごとの割合をそれぞれの学校に還元することにより、後期以降の学校運営に生かすことができました。 ・心身が不安定な教職員について、学校管理職と連携しながらサポートすることができました。				
令和7年度取組予定				
・全体的に仕事の「量」・「質」とともにやや負担を感じ身体的負担度を抱えながらも、上司からの支援を受け、それぞれの良さを生かしながら働きがいを感じている教職員が多い傾向にあります。30年代、40代の教職員について、高ストレス者割合が他の年代に比べて高い傾向があり、校務的な負担が大きいと推測されるため、課題として捉えていきます。				

(3) サポートスタッフ及び地域人財の活用

様々な分野において専門性を持つサポートスタッフであるICT教育推進員、キキョウスタッフ、スクールソーシャルワーカー、スクールサポートスタッフ等の活用を図ります。また、地域人財の支援を活用し、教職員の業務削減を図ります。

(4) ICTを活用した業務の効率化の促進

業務の効率化を図るため、ICTを活用した業務改善を推進します。会議資料、校報、学級通信等のペーパーレス化を促進します。

令和6年度計画
・小学校の教科書の採択替え（4年ごと）に伴って教師用デジタル指導書を購入する予定としています。
取組・実績
<実施内容> ・ICT教育推進員4人、キキョウスタッフ45人（小学校39人、中学校6人）、スクールサポートスタッフ21人を学校に配置しました。 ・スクールソーシャルワーカーは、週に1回各学校を巡回し、問題を抱える子ども達の置かれた環境への働きかけや関係機関へのネットワークの構築などに努めました。 ・地域人材を学習サポーターとして活用しています。小学校では、主に総合的な学習、クラブ活動、生活科等の授業を支援、中学校では、選択音楽の指導、国際交流の学習支援を行っていただきました。謝礼として、1時間あたり500円の図書カードを渡しています。（R7.2.1現在 1664枚） <主要な事業費（R6年度予算）> ・学校教育活動支援者謝礼金（図書カード） 1,245千円 ・人件費は人件費課で計上
成果・効果
・様々な分野において専門性を持つ職員の活躍により、教職員の超過勤務を削減することができました。
令和7年度取組予定
・中学校の教科書の採択替え（4年ごと）に伴って教師用デジタル指導書を購入する予定としています。教員の教材作成の時間短縮に繋がります。

● 計画の成果目標

月の超過勤務時間が80時間を超える教職員の人数（延べ人数）		
基準値（令和4年度）	現状（令和6年度）	目標（令和9年度）
44人 （令和3年度結果）	11人（R7.1.31現在） ※6人（R6.1.31現在）	0人

ストレスチェックの実施率		
基準値（令和4年度）	現状（令和6年度）	目標（令和9年度）
94.7%	94.2% ※令和5年度 95.4%	100%

3 安心・安全な教育環境の確保（教育総務課）

● 具体的な取組

（１） 笠原小中学校の建設

老朽化の進む笠原小学校の建替えに際し、笠原中学校と併せて義務教育学校として「笠原小中学校」を建設します。

令和６年度計画	
・年度当初に業者を入札で決定し、夏頃から小学校の解体工事と小中学校の建設工事を始めます。 ・工事の進捗状況を随時ホームページ等で情報発信します。	
取組・実績	
<実施内容> ・笠原小中学校建設工事として、建築工事、電気設備工事、機械設備工事に工種を分割して分離発注を実施し契約しました。（７月） ・工事に先立ち、起工式を執り行いました。（７月） ・工事の進捗状況をお知らせするため、随時ホームページで現場の写真を発信しています。 <主要な事業費（R6年度予算）> ・笠原小中学校工事監理業務委託料 28,320 千円 ・笠原小中学校建設工事料 2,049,783 千円	<笠原小中学校イメージパース>  <進捗状況 1月> 
成果・効果	
・起工式を執り行い、工事の安全を祈願しました。 ・建設工事の完成に向け、小中学校・関係機関と綿密に打合せを行っています。	
令和７年度取組予定	
・工事を完成し、引越し業務等令和８年４月の開校に向けた準備をします。	

(2) 学校施設の更新計画の検討（学校施設整備計画の見直し）

建替えや長寿命化など学校施設の更新を計画的に進めるため、次期建替え校や長寿命化実施方針の策定など、学校施設整備計画を見直します。次期建替え校の選定後、新校舎建設に必要な整備基本構想の策定に着手します。また、長寿命化に必要な整備メニュー、事業の実施順位など整備手法を策定します。

令和6年度計画
・築年数が40年を超過している施設が多くなっていることから、建替や大規模修繕の具体的な整備時期や整備内容を引き続き検討します。
取組・実績
<実施内容> ・令和2年に策定、令和6年に改定した、学校施設整備計画について、国・近隣自治体の動向、市全体の公共施設整備方針を踏まえ、詳細計画として学校の個別保全計画を策定しました。（6月） <主要な事業費（R6年度予算）> なし
成果・効果
・公共施設の管理担当課と共同して計画を作成しました。 ・個別保全計画に基づき、次年度保全工事の順位付け及び予算化の検討をしました。
令和7年度取組予定
・築年数が40年を超過している施設が多くなっていることから、建替や長寿命化、大規模修繕の具体的な整備時期や整備内容を引き続き検討します。

(3) 学校施設整備計画に基づく長寿命化、大規模改修事業の推進

今後の学校機能に必要な機能・設備等を見据え、中長期的な視点で施設の維持管理を進めます。市の公共施設全般に係る計画・施策とも整合を図りながら、学校ごと・改修部位ごとに整理した「個別保全計画」に基づいて、計画的に改修事業を進めます。

令和6年度計画
・小学校18件、中学校23件の大規模改修事業を実施します。 ・施設の老朽度合いや学校のヒアリング等により保全計画の見直しを実施します。
取組・実績
<実施内容> ・小学校18件、中学校23件の大規模改修事業を実施しました。 ・次年度の大規模改修事業を、個別保全計画・学校ヒアリング・現場確認の結果をもとに決定しました。（8月） <主要な事業費（R6年度予算）> ・共栄小学校屋内運動場屋根防水改修工事 57,650千円 ・市之倉小学校校舎棟屋根防水改修工事 26,020千円 ・多治見中学校特別教室長寿命化工事（理科室） 112,000千円 ・陶都中学校昇降設備更新工事 42,000千円
成果・効果
・夏休み期間に集中して工事を実施し児童生徒の授業や活動に影響が出ないよう配慮しました。
令和7年度取組予定
・小学校18件、中学校14件の大規模改修事業を実施します。 ・施設の老朽度合いや学校のヒアリング等により保全計画の見直しを実施します。

(4) タブレット端末の更新

学校ＩＣＴ環境整備計画に基づき、ＩＣＴ環境を活用した教育環境を整備します。

令和６年度計画		
・令和６年度も引き続きタブレット端末の更新に向け情報収集します。 ・引き続きＩＣＴ環境の整備更新・維持管理を適正に実施します。		
取組・実績		
<実施内容> ・文部科学省によるＧＩＧＡスクール構想（第２期）を見据え、タブレット端末の更新について、県と各市町村教育委員会の間で共同調達する仕組みを構築しました。（４月～１２月） ・学校内ネットワークの不具合や通信状態の不安定により授業等への影響が出ているため、ネットワークアセスメント調査を実施しました。（１月～３月予定） ・ＩＣＴ環境の維持管理事業として、学校ネットワーク業務運用保守事業など委託事業を行いました。 <主要な事業費（Ｒ６年度予算）> ・学校ネットワーク業務運用保守事業などの委託事業 34,172 千円 ・ネットワークアセスメント調査委託費 3,520 千円		
成果・効果		
・ＩＣＴ環境の整備更新・維持管理を適正に実施しました。		
令和７年度取組予定		
・文部科学省の補助金を活用し、タブレット端末の更新を進めます。（令和８年４月～利用開始） ・実施したネットワークアセスメントの結果を基に、機器更新等の計画を作成します。 ・引き続きＩＣＴ環境の整備更新・維持管理を適正に実施します。		

● 計画の成果目標

（仮称）笠原小中学校の建設		
基準値（令和４年度）	現状（令和６年度）	目標（令和９年度）
基本・実施設計	工事契約	完成（令和７年度末）

学校施設整備計画の見直し		
基準値（令和４年度）	現状（令和６年度）	目標（令和９年度）
－	整備計画を踏まえた個別保全計画の更新	次期建替え校の決定及び建設検討委員会による整備基本構想の策定

大規模改修事業の実施		
基準値（令和４年度）	現状（令和６年度）	目標（令和９年度）
大規模修繕工事の実施、これを踏まえた個別保全計画の更新	大規模修繕工事の実施、これを踏まえた個別保全計画の更新	学校施設整備計画を踏まえた個別保全計画の更新、大規模改修事業（長寿命化、大規模修繕工事）の実施

ＩＣＴを活用した教育環境の整備		
基準値（令和４年度）	現状（令和６年度）	目標（令和９年度）
タブレット端末を整備	タブレット端末の更新に向け共同調達の仕組みを構築	タブレット端末を更新（令和７～９年度）

